

経営比較分析表（平成28年度決算）

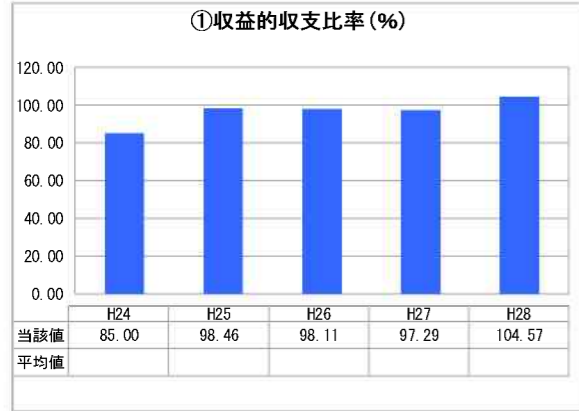
千葉県 君津市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.33	100.00	2,268

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
86,552	318.81	271.48
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
280	0.22	1,272.73

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



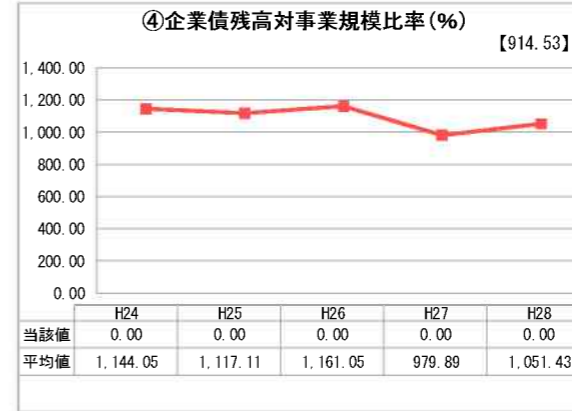
「単年度の収支」



「累積欠損」



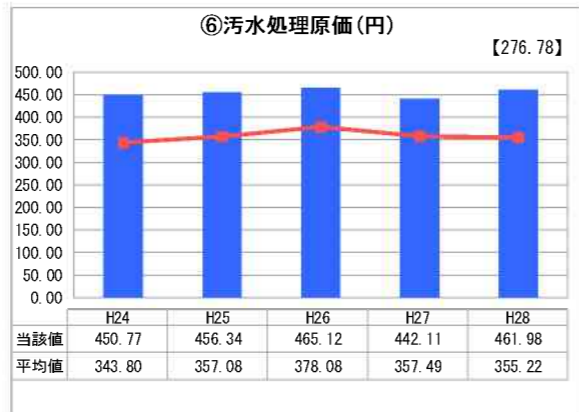
「支払能力」



「債務残高」



「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

総収益について、処理区域内人口が平成28年度末で280人と少なく、料金収入が少ないため、一般会計からの繰入金に依存している。施設の維持管理費や地方債償還金等の合計に対する総収益の割合を示す「①収益的収支比率」は100%を上回っているものの、汚水処理費に対する料金収入の割合を示す「⑤経費回収率」が類似団体平均値と比較し低い。料金収入に対する企業債残高の割合を示す「④企業債残高対事業規模比率」は、残高が平成28年度末で152,940千円あるが、一般会計からの繰入金で償還しているため、0%となっている。有収水量1m³あたりの汚水処理費を示す「⑥汚水処理原価」は、処理施設が小規模で水量が少ないものの、維持管理費は一定の規模必要となるため、類似団体平均値と比較し高くなっている。処理施設の汚水処理能力に対する一日平均処理水量の割合を示す「⑦施設利用率」は、汚水量の減少により、利用率が減少の傾向にある。処理区域内人口に対する水洗便所設置済人口の割合を示す「⑧水洗化率」は、集落ぐるみで下水道への接続に取り組んだことから、水洗化率は高く、処理施設が有効に活用されている。

2. 老朽化の状況について

平成15年度に一部供用開始してから14年が経過したが、管渠の耐用年数が50年であることから、当面更新は要しない。一方、処理施設の一部の電気・機械設備が耐用年数を超え、更新が必要となっていることから、計画的な更新が必要である。

全体総括

集落規模が小さいため料金収入が少なく、一般会計からの繰入金に依存せざるを得ない状況である。処理施設は小規模であるが、一定規模の維持管理費は必要のため、今後必要となる老朽化した施設の更新を計画的に実施し、維持管理費の抑制に努める。また、事業の継続について見直しを行う。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。